

国立国会図書館所蔵

田中尚房旧蔵書・大沢清臣旧蔵書について

大沼 宜規

本稿は、前稿「国立国会図書館所蔵横山由清旧蔵書について¹」に引き続き、国立国会図書館古典籍課に所蔵されている「800函」（函番号800～899が付与されたもの）のうち、名家自筆本・手沢本としてコレクション性を意識し、帝国図書館時代の担当者が購入したのではないかと思われる資料群の中から、田中尚房および大沢清臣の旧蔵書について報告するものである。

田中尚房

田中尚房（1839-1891）は、幕末・明治期の故実家である。天保10年（1839）11月22日名古屋江戸町の邸で生れた。幼名哲作、哲郎。家は尾張藩侍医であった。国学を植松茂岳に学び、医術も好んで古法の研究をしたという。元治元年（1864）には『皇国病名集』を著し、藩主に献上した。慶応3年（1867）、父智哲の死後家を継いで寄合医となる。明治元年（1868）12月には国学教授を命ぜられ、翌2年に管内神名式所載社の場所の比定にあたった。明治4年10月に職を辞し愛知郡大喜村に移住するが、明治5年6月熱田神宮少宮司、同7年12月には八坂神社宮司、同9年1月には北野神社宮司となり、没する同24年まで勤務した。20年から24年迄は広田神社の宮司も兼ねている。明治24年12月7日に病没した。著作に『歴世服飾考』『男女頭髪考』『鷹全書』『北野神社由来記』『八坂神社由来記』等がある²。

当館で所蔵する田中尚房の旧蔵書は、現在確認できた範囲では17点（『田中叢書』は10点と数えた。）。いずれも大正3年に購入したものであり、田中尚房自身の稿本類が多いことに特徴がある。なかでも、『服飾雑考』には主著の一である『歴世服飾考』の素材としたと推測される絵巻の抜粋や

草稿本数種が含まれている。また、『男女頭髮考』の草稿本と思われる『男女頭髮沿革考』も見られる。『田中叢書』は雑多な資料を集めたものであるが、そのなかにもまた、勤務した熱田神宮の歴史を記した『熱田神宮御伝記略』、『皇国病名集』の草稿と考えられる『病名集』や、その基礎資料として利用されたとと思われる『大同類聚方』などが含まれている。これらは田中尚房の著作活動の様子を窺い知ることができるものである。

田中尚房の旧蔵書の全体像については、数量、内容ともに不明である。当館以外では、たとえば、北野天満宮で『尾張国神名帳集説』『弘道館記述義』『王陽明文粹』『大宝貳年十一月御野国山方郡戸籍』『大同類聚方』『神道奇霊伝』（慶応三年田中尚治（尚房弟）写）『神遺方』『五体身分集』『静観堂初学条件』『傷寒論』『上代薬方類書』（慶応二年田中尚房写）、また、東京大学史料編纂所には『田中尚房蒐集文書』（京都帝国大学文学部原蔵本の影写本）といった関連書が所蔵されていることが確認できるが³、旧蔵書を所蔵するその他の機関等は未詳である。

大沢清臣

大沢清臣（1833-1892）は、江戸時代後期から明治中期にかけての国学者。名は「きよおみ」とも「すがおみ」とも読むらしい。天保4年、大沢正護の四男として大和国添下郡七条村（現奈良市内）に生れた。歌学を香川景樹門の御影顕成、伴林光平に学び、安政4年（1857）に京都壬生家の雑掌となる。文久元年（1861）、谷森善臣に従い山陵調査に当たった。明治2年諸陵権允、同5年には文部省編輯寮語彙専務、同6年龍田神社大宮司、同7年には広田神社大宮司となった。同年教部省権大録に転じ、神社諸陵の調査に従事する。10年教部省廃省後は内務省社寺局に勤務、同11年3月に宮内省に移る。その後は、一時東京大学の准講師なども兼務するが、同19年に諸陵属専務となった。師谷森善臣同様、生涯を通じて陵墓調査に尽力したといえよう。著作に『皇明紀事文栞』がある。明治25年9月15日没。青山墓地に葬られた⁴。

国文学者の松井簡治（1863-1945）は「大沢清臣という人は、書物を大切に
する人だ」と述べていたそうであるが⁵、現在では、蔵書は散逸したらしく、まとまった所蔵のあることを聞かない。ただ、たとえば宮内庁書陵部に『日本書紀』『本朝尊卑分脈図脱漏』『祝詞考』『伊勢物語新釈』『令義解註』『日本逸史私記』、東京大学史料編纂所に『山陵考』（大沢著）『山城国

宇治郡中条里古図』（大沢の写本の写し）『東大寺図』（明治9年3月27日大沢清臣写）『備中国古図』（明治15年12月大沢清臣写）、早稲田大学図書館に『令義解』（書入本）、『山陵図附考証抄』（明治10年3月。宮内省13行朱罫紙を使用。）など、関連する本の所蔵が確認できる⁶。この他にも諸方の図書館に収められている可能性がある。⁷

当館で所蔵する大沢清臣の旧蔵書で、現在確認している点数は12点。谷森善臣の著作や善臣の識語を移写したものが多いたのは、谷森門下の大沢にふさわしいといえよう。

いずれもコレクションというにはあまりに小規模に過ぎるが、田中尚房旧蔵書は大正3年12月、大沢清臣旧蔵書は大正7年5月に購入されたもので、事務用目録には「田中本」、「大沢本」と記載されており、既に紹介した小杉楡邨や横山由清の旧蔵書と同様に、旧蔵者を意識してまとめて購入されたものと考えることができる。その点に留意し、当館古典籍課に所蔵される江戸時代後期から明治時代前期にかけての蔵書家の小規模なコレクションを紹介していく一環として報告するものである。

注記

- 1 『参考書誌研究』65号（2006.10）所収。
- 2 半井真澄「田中尚房君小伝」（『歴世服飾考』明治図書・吉川弘文館、1952（『故実叢書』第5巻）所収）、「田中尚房」（青野千壽代執筆。国立国会図書館編『人と蔵書と蔵書印』（雄松堂出版、2002）131頁）による。
- 3 柴田純〔ほか〕『北野天満宮和書漢籍目録』（北野天満宮、1990）、東京大学史料編纂所蔵史料目録データベース（<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>）による。
- 4 「大沢清臣」（青野千壽代執筆。国立国会図書館編『人と蔵書と蔵書印』（雄松堂出版、2002）42頁）、奈良県編『大和人物志』（名著出版、1974）730頁、石井庄司「大沢清臣が事ども」（『神道大系』月報61 1986年12月、1-4頁）等による。
- 5 前掲注4石井庄司「大沢清臣が事ども」による。
- 6 宮内庁書陵部『書陵部蔵書印譜』明治書院、1996-97。東京大学史料編纂所蔵史料目録データベース（<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>）、早稲田大学図書館古典籍総合データベース

(<http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html>) による。

- 7 たとえば、九州大学所蔵萩野由之旧蔵の『大鏡』『水鏡』は、ともに大沢旧蔵本であるという（平田俊春「大鏡萩野文庫本の研究—上—塵袋所引大鏡系統本の発見」（『国語国文』20（8）[1951] 19頁）。

* 校正作業中に『新葉和歌集』〈せ-114〉、『南都古京図』〈る二-128〉、『山城国宇治郡中条里古図縮写』〈る二-127〉、『大和国添下郡京北班田図』〈る二-125〉、『大和国平群郡額安寺古地図』〈る二-126〉の5点の大沢清臣旧蔵書を確認した。従って解説、及び凡例に記した大沢旧蔵書の数も増えることになる。いずれも大沢の識語を有するものである。機会があれば、補遺として紹介したいと考えている。

国立国会図書館所蔵田中尚房・大沢清臣旧蔵書目録

凡例

1. 本目録は国立国会図書館古典籍課に所蔵されている田中尚房と大沢清臣の旧蔵書の目録である。
2. 田中尚房旧蔵書については、大正3年12月5日に購入され「830函」に収められた15点及び「ん函」に収められた2点の資料、大沢清臣旧蔵書については大正7年5月16日に購入され830函に収められた10点の資料を収録する。管見の範囲で確認できた、上記以外の2点の資料を「その他の大沢本」として付載した。それぞれ書名の五十音順で排列した。
3. 目録の記述は書名、編著者名、刊写の別、冊数、大きさ、請求記号、注記、細目、特記事項の順に記した。
4. 書名はゴチック体で示した。原則的には『帝国図書館和漢書書名目録』の書名を踏襲したが、一部変更したものもある。複数の書名がある場合は、原則として巻頭から採録し、採録以外の書名は適宜注記に記した。書名の後に、完本の場合は巻数を、端本の場合は存在する巻数を記した。なお、『田中叢書』は収められている個別の資料を複出した。
5. 編著者の役割が「著」のみの場合は、役割を省略した。
6. 出版事項、書写事項は刊写の別に続けて、括弧内に記した。
7. 合冊されている場合は原冊数に続けて「合」と記し、合冊後の冊数を記した。
8. 大きさは縦×横、ミリ単位まで記した。
9. 請求記号は松葉括弧に包み、右寄せで記した。
10. 一般注記は行を替え1字下げとし、別書名、特殊な装丁の情報、印記、購入日等について記した。
11. 内容注記は行を替え1字下げとして記した。
12. 田中尚房・大沢清臣自身や彼らと同時代の人物による書写、校合、入手経緯等に関する奥書・識語はなるべく翻刻した。括弧中に色名を記したものは、その識語、奥書等の記された筆の色である。なお、体裁は必ずしも原本の通りではない。
13. 字体は、現在通行の字体を用いた。
14. 推定は〔 〕で記し、参考の為の補記は（ ）に囲んだ。

※ 編者が気付かないものの「その他の大沢本」に相当する資料も残されていると思われます。また、翻刻にあたり誤認等もあるかと思ひます。お気づきの方はご一報いただければ、有難く存じます。

田中尚房旧蔵書

医語拾遺 田中尚房 写本（自筆稿本） 1冊 24.2 × 16.6 cm <831-5>
田中叢書第9冊。題箋「皇国医語拾遺」。大正3年12月5日購求
古医学に関する言葉を含む文を古文献から取り出したもの。

衣服考証書 田中尚房 写本 1冊 24.6 × 16.0 cm <831-5>
田中叢書第16冊。大正3年12月5日購求

『帝国図書館和漢図書書名目録』第4編では、「衣服考証材料」とある。書名は元表紙によった。歴代天皇事跡、安斎随筆の抜書（装束ノ色ノ事）、衣服に関する古文献の抜書、服制に関する田中尚房上表、大伴家持についての覚、天子装束に関する覚、宇治拾遺物語抜書、「玉装・衣服」、「万葉服飾」、「四位以下服色沿革」、「駄伝」（延喜兵部式の抜書など）、「田中尚房著原稿衣服考証書之綴」（「装束織文図会」「建武式目追加」「珉江入楚」など諸書からの抜書や服飾の沿革表）などから成る。

衣服志料 田中尚房 写本（自筆稿本） 2冊合1冊 27.0 × 15.3 cm <831-4>

書題箋角書「歴世」。印記「神習舎印」。大正3年12月15日購求
内容：上：衣服志料。服制沿革考／田中尚房述（冠帽ノ部。明治17年3月8日成。高さ24.1cm）。服制沿革図考^{自推古天皇}_{至文武天皇}。下：歴世服飾考／田中尚房（草稿。「帯之部」「裳之部」「衣之部」所収。「帯裳服色」と貼紙。また「田中尚房著 草稿 二十冊 次第順不同 改壺冊 散失を恐れ綴置」と貼紙あり）

「衣服志料」は、衣服に関する用語について『古事記』『日本紀』をはじめとする古文献から衣服関係の記述を抜書したもの。また、「服制沿革考」は衣服に関する沿革を記述したもの。「服制沿革図考^{自推古天皇}_{至文武天皇}」

は服飾の制度（服色等）を時期、位などにより図表化したもの。下巻は服飾の制度などについて諸史料、文献等から抜書している。

庚午式社改訂記 田中尚房 写本（自筆稿本） 1冊 23.4 × 16.2 cm

〈831-5〉

田中叢書第4冊。印記「なほふさ」「神習舎印」。大正3年12月5日購求
明治3年の尾張国内神社調査の記録。序文には「朝命ニ因テ国内
ク廻村シ地名字等モキ、糾シ社々御霊代モ開扉スヘキハ拝覧モナシ」
（午九月）とある。半井忠見（医家・国学者。1813-89）の書簡を貼付、
付箋等を付す。

職原抄 刊本（平野屋佐兵衛刊） 2冊 27.2 × 19.0 cm

〈831-6〉

付：職原補遺。職原後附

田中尚房自筆書入本。印記「神習舎印」「尾張医源尚房」「尾藩医田中尚
房蔵書」。大正3年12月15日購求

大同類聚方卷25-103 写本 3冊 24.2 × 16.6 cm

〈831-5〉

田中叢書第13～15冊。大正3年12月5日購求

第10冊元表紙見返に「大同方畢作長哥」を写している。また、巻末
に「右大同方合本三冊文久三年癸亥五月五日借奥田氏所秘蔵之古写本
書写之後以数本尾張国寺社役所々蔵本知多郡医士梶田春平
所蔵本医学館所蔵之本二冊此外異本数部割加校合以為家珍 田
中源尚房 写大同方畢偶得加良字多 平城天子豈欺予濟世奇方多出請
極口徒誇海西術盲医何識大同書」とある

大同類聚方考説 写本 1冊 24.6 × 16.4 cm

〈831-5〉

田中叢書第12冊。印記「田中尚房蔵書」「田中尚房」。大正3年12月5
日購求

内容：大同類聚方考説。大同類聚方偽本弁／松浦道輔（天保2年8月4
日作）

井上頼圀の識語を移写。

大同類聚方藥品考2巻 安倍真直〔他〕著 田中尚房解 写本（田中尚房
写）2冊合1冊 23.4 × 17.0 cm

〈831-5〉

田中叢書第10～11冊。題箋「大同藥品考」。印記「尾張医源尚房」「神

習舎印」(「尾張医源尚房」上に「神習舎印」を捺す。)、表紙に「慶應二年」とあり、大正3年12月5日購求

田中叢書 田中尚房 写本(自筆稿本等) 17冊合12冊 <831-5>

大正3年12月5日購求

内容：1：大和国神名帳。熱田神宮御伝記略草稿。熱田神宮御伝記略全。〔山室神社建築資金募集〕。2：庚午式社改訂記。3：病名集。4：病名集。5：医語拾遺。6：大同薬品考。7：大同類聚方考説。大同類聚方偽本弁。8～10：大同類聚方。11：衣服考証書。12：〔漫録〕。別冊：動詞活用表

詳細は各項目参照。数字は現在の合綴の状況にあわせ仮に付したのもの。なお、『帝国図書館和漢図書書名目録』第4編には下記の通り登録されている。

田中叢書 田中尚房自筆稿本 写本

第一冊 大和国神名帳

第二、三冊 熱田神宮御伝記略

第四冊 庚午式社改訂記

第五、六冊 病名集

第七冊 増補病名集

第八冊 家伝鍼灸卒病

第九冊 医語拾遺

第一〇、一一冊 大同類聚方薬品考

第一二冊 大同類聚方考説

第一三冊至一五冊 大同類聚方

第一六冊 衣服考証材料

第一七冊 漫録

動詞活用表 一枚

男女頭髮沿革考 田中尚房 写本(自筆稿本) 2冊合1冊 26.8×18.1cm

<831-3>

大正3年12月5日購求

内容：男女頭髮沿革考(草稿。題箋に「草稿 明治廿二年 上下」とあり。序文は明治22年8月富岡鉄斎筆)。歴世衣服考附録男女頭髮沿革之部(草稿。題箋に「明治廿一年二月廿一日起草」とあり。巻頭は「男女

頭髮沿革考 歷世衣服考附録]. 25.1 × 17.4 cm). [附録] (八丈婦人髮容の図. 東都婦女の髮風并考. 大しんばん美じんそろへ. 翠屏山 (沈文雅製). 女髮図 (写. 図5葉). 酒折宮之末社火揚命画像)

頭髮の沿革に関する考証。『歷世衣服考』附録とある。『歷世衣服考』は、『服飾雑考稿本』によれば『歷世服飾考』のことと考えられる。『男女頭髮沿革考』は『歷世服飾考』に付す予定の草稿か。

内容中、附録としたものは、服飾に関する資料の貼込。「八丈婦人髮容の図」は坪井正五郎写。書簡の裏に写したもの。「左図并ニ文章 尚房翁自筆也」とある。図は「御参考迄に 明治二十年八丈島へ出張の節同伴の写真師に命じて撮影させし写真によりて画く」と記されている。「東都婦女の髮風并考」は『吾妻余波』の切抜。「明治十七年岡本昆石編吾妻余波の中髮型の部切り取りて進上致候、東京日本橋区葺屋町六番地東陽堂発行風俗画報第一号にも婦人の髮容図あり、東京日本橋区本町二丁目三番地東京教育社発行の貴女の友三十八三十九の両号にも女の髮型の図あり」と識語がある。

動植名彙 10 卷 伴信友 写本 (田中尚房写) 10 冊 22.7 × 16.1 cm

印記:「神習舎印」「尾張医源尚房」. 大正 3 年 12 月 5 日購求 <831-7>
内容: 第 1 冊～第 3 冊: 草部. 第 4 冊: 木部. 第 5 冊: 鳥部. 第 6 冊: 獸部. 第 7 冊: 蟲部. 第 8 冊: 魚部. 第 9 冊: 貝部. 第 10 冊: 動植名彙附録 (金類 水類 土石類 飲食類 薬用器材類 人体類 疾病類)

第 10 冊卷末に「右九十両卷嘉永辛亥七月転借谷森某伝写本於三園神谷氏謄写中元前一日功畢 近信」「安政五戊午正月九日以賀島氏本写訖前云谷森氏者京師人也」「右伴翁所著動植名彙十卷以吉田氏本書写自加校合以為家珍 文久元年辛酉六月廿日 田中尚房^(代筆)」「此書ハ尚房廿三歳ノ時吉田嘉武ニ借テ写シ置ヌ、今年明治ノ十三年ト云年ノ二月オモフ旨アリテ校合ヲ始ム、卷中赭色ノ書入コレナリ 尚房」とあり。

病名集 2 卷 田中尚房 写本 (自筆稿本) 2 冊 23.7 × 16.3 cm <831-5>

田中叢書第 5～6 冊. 印記「尾張医源尚房」. 大正 3 年 12 月 5 日購求

元治元年 6 月藤原正賛 (「張藩医学訓科兼薬園司」)、文久 2 年吉田嘉猷序、同年田中尚房自序、日下部良景跋を付す。病氣ごとに古文献より記事を引用したもの。

病名集 2巻 田中尚房 写本（自筆稿本） 1冊 23.8 × 17.0 cm <831-5>
田中叢書第7冊．印記「尾張医源尚房」．題箋角書「校正」．題箋に
「増補」「明治十五年」と朱書あり．大正3年12月5日購求

儷楽図 紀宗直画 写本（田中尚房写） 1軸 25.4 cm <ん-107>
大正3年12月5日購求
摸本。卷末に「三条宮書御室絵 舞銘 当今震筆 宝徳元年九月日
御厨子所預紀宗直画」とあり。

服飾雜稿稿本 田中尚房 写本（自筆稿本） 7冊 27.8 × 19.6 cm
彩色図多数あり．大正3年12月15日購求 <831-2>

いずれも『歴世服飾考』の草稿類と見られる。元表紙とみられる部分に、冊番号等を記した付箋や、帝国図書館蔵印・受入印があるものがみられ、帝国図書館で書類の綴数冊毎に合冊し、合計7冊にしたものと思われる。そのため、もとの書類綴の表紙部分に、付箋と「帝国図書館蔵」印、大正3年12月15日の受入印がある。必ずしも巻数の順序に整理されていない。以下に各冊の大概について記す。

第1冊は、各時代の装束が描かれた図画資料の写しを綴じ合わせたものである。もと5綴あったものを1冊にしたもの。第1綴の表紙には「田中尚房翁自筆 原稿用 三枚」「二十本之十六」「草の十七 図」と記された付箋がある。内容は「宝永華洛再見図」よりの写し8枚掲載。第2綴部分表紙には「田中尚房翁自筆 原稿用 六枚」「式十本ノ十七」「草の十八」と記された付箋がある。「一遍聖行状」よりの写し9枚（6丁）掲載。第3綴部分表紙には「田中尚房著 廿冊ノ十八 諸図綴 四十四枚草稿」「草の十九 図」と記された付箋がある。「信実朝臣筆北野縁起」「七十一番職人尽調合」「石山寺縁起」「玉石雑誌所載一遍絵詞」「病草子」から写された図のほか「菱川師宣〔肖像〕」（「葵生堂蔵」）「寺町中川ニテ謹写」とあり「岩佐又兵衛〔肖像〕」（「葵生堂蔵」）「寺町中川ニテ謹写」とあり「山崎闇斎・伊藤仁斎肖像」「頼山陽先生肖像」「大石良雄肖像」「宮川長春六十一才自像自画」（「原本文化八年九月十三日文晷摸写」とあり）などが収載されている。第4綴部分表紙には「三十六調僊像抄」と記された付箋があり、「三十六調僊像」から写された図を収載。第5綴部分表紙には「田中尚房著 原稿画 廿一枚」「二十冊之二十終」「草の廿一 図」と記された付箋がある。「集

古図「大和国吉野邨吉野水分神社像ノ中」「法隆寺聖靈院上宮太子同座之像」「武蔵国埼玉郡中条村所掘出土偶」「山城国宇治郡宇治神社下ノ社菟道稚郎子皇子神像」「三十六譚僊画卷」「弘法大師行状絵卷」「天平十七年四月一日受成実論疏第十卷」などの図を収載している。

第2冊は2綴からなる。田中尚房の自筆草稿と思われる。第1綴部分表紙には、「歴世服飾考 一」とある。内容は「履」「背子(カラキヌ)」「束帯(表)」など。第2綴には「歴世服飾考引用図書」「黄櫨」「黄丹」(活字本では「卷之八服色之部」に含まれる。)
「冕冠」(活字本では卷之二)「細長」(活字本では卷之五)などの草稿。「梅」「裏梅」などは活字本では卷之八に納められているが、本草稿では「卷之九」とある。

第3冊は考証書類などを綴じ合わせたものである。元表紙には「調査ヲ要スル分 考証原稿書類」とあり、「廿冊之内一」と付箋がある。[[本邦太古ノ服装]」「足利將軍家館」「編笠考」「付言」(宇佐神社扉画田中氏ノ考証書ニ付ス。田中識語を付す)「器用部」「神武天皇服装考証」(草稿2種)「神武天皇服装考証」等。寺社縁起の解題、什物等の目録(明治22年12月21日付)や人名覚等も含む。田中の筆跡と思われるものと、そうではないものを含む。「足利將軍家館」「付言」などは田中の筆跡とは異なる様に見える。

第4冊は3綴からなる。第1綴には「歴世服飾考」の卷一、二上、二下、三、四、五、六にあたる部分などが含まれる。「歴世服飾考」用紙を使用。第二綴には冠(活字本卷之二)、扇(活字本卷之七)など、第3綴には「汗衫」(活字本卷之五)、狩衣(活字本卷之四)、浄衣(活字本卷之三)などが納められている。

第5冊は3綴から成る。第1綴部分には「半臂」「襖」など(活字本では卷之三)第2綴部分には「服制沿革」「帽」(活字本では卷之三)「表衣」「神武天皇服飾考証」「折烏帽子」などが含まれている。

第6冊は、2綴からなる。第1綴部分は「歴世衣服考卷之一」「服制沿革」「半臂」「襖」などを含む。第2綴部分は、「道服」「羽織」「上下」「十徳」「表衣」「狩衣」などを含む。

第7冊は3綴からなる。第1綴は「田中尚房翁自筆 原稿 十二枚十一紙とも 草ノ十式」と記された付箋がある。第2綴には「田中尚房著 二十本之十二 歴世服飾考 廿五枚 草ノ十三」と記された付箋がある。内容は「刀剣之部」。「刀剣之部」は活字本にはない。第3

綴には「原稿用式十枚 田中尚房翁自筆 草の十四図」と記された付箋がある。「鶴ヶ岡放生会職人尽歌合」「熊野新宮宝物図」等の所載図を写した彩色図を多数含む。

以上、本『服飾雜稿本』は主に『歴世服飾考』の草稿を集めたものである。書名に「歴世衣服考」と付すものがあるほか、活字本の『歴世服飾考』とは分類が異なり、さらに活字本に含まれない図画・部門も含む草稿本である。

〔漫録〕 田中尚房 写本 1冊 23.6 × 16.2 cm <831-5>

田中叢書第17冊。大正3年12月5日購求

付：別冊（21.8 × 8.8 cm）：動詞活用表（末に「神武天皇即位紀元二千五百三十八年明治十一年七月一日 田中尚房撰」）

覚書である。貼込多数。内容は、たとえば豊樂院絵図、与一服裁縫図（「農業雜誌廿二年六月五日発行第三百七十五号ニ出ツ」と朱書）、魚袋、鎌鎗図、高橋氏文考／伴信友、八幡太郎源義家団扇、同鞍、同笠、美淋製法、愛知県学則、京都府学則、衡重（「塩尻」引用）、芳香耐薬味（明治13年7月）、天野信景著書、河村穎根著述目録、伊賀国山田郡鳳凰寺村経ヶ峰、東鑑抜書、諸社根元記抜書、倭訓栞抜書、棗囊輻湊、祭事記、雜（胡床等図、冠図、語学書目、産土神を拝む詞（厳島神社蔵板）、印影、柳宗元墳墓ノ事ヲ説ク条ほか）などの類。

室町殿之図 〔土佐〕 広周筆 写本（田中尚房写） 1軸 38.2 cm

大正3年12月5日購求

<ん-106>

摸本。巻頭の付箋には「室町殿之図屏風 弾正忠広周筆模」とあり。彩色図29枚からなる。

大和国神名帳・熱田神宮御伝記略 田中尚房 写本（自筆稿本） 3冊合1冊 25.7 × 18.5 cm

田中叢書第1～3冊。印記「尚房印」。大正3年12月5日購求

<831-5>

内容：大和国神名帳。熱田神宮御伝記略 草稿（熱田神宮大宮司角田忠行及び明治7年2月9日植松茂岳による序を付す）。熱田神宮御伝記略／田中尚房（岡本経春、半井忠見等による付箋・書翰を付す）。附：〔山室神社建築資金募集趣旨書〕／本居豊穎、本居健亭、平田胤雄主唱（明治14年

3月)

「大和国神名帳」には「右東大寺ノ戒壇院神名帳一卷原本為横披ノ一軸卷首有印文藤原以文所珍藏也、希頃日在京師偶觀之以文家即請借手写卦界字形略随旧觀日跋語四行以原本臨写云 文化六年己巳八月十一日 源吉従記／同年九月十六日雇人令臨写他日一校了于時在平安二条堀川官舎 伴信友（花押）」と本奥書がある。「熱田神宮御伝記略 草稿」部分には「尚房」印あり。

大沢清臣旧蔵書

蘭笠のしづく 谷森善臣 写本 1冊 27.0 × 19.4 cm <830-155>

印記「大沢書櫃」. 大正7年5月29日購求

第54丁裏に「安政四年丁巳九月斗都にて父のおもひに侍るころある人のもてるをかりてうつしぬ 久米幹文」とある。

柏原山陵考 谷森善臣 写本 1冊 26.8 × 19.5 cm <830-154>

印記「大沢書櫃」. 大正7年5月29日購求

卷末「慶応元年四月 大和介平種案」

近代帝王系譜 写本 1冊 26.8 × 19.9 cm <830-152>

印記「大沢書櫃」. 大正7年5月29日購求

内容：天皇. 皇子皇孫系譜. 伏見宮. 京極宮. 有栖川宮. 閑院宮

皇居避災例 写本 1冊 27.2 × 19.6 cm <830-149>

印記「大沢源氏図籍」. 大正7年5月16日購求

内容：平安皇居避災目安. 平安皇居避災例

卷末奥書「弘化三年正月廿一日 のふとも／同四年八月十五日写たねまつ／安政二年四月廿五日朝写之 藤原輝実」。「百鍊抄」「皇代記」の引用など。「安政二五廿六」の書入あり。

皇統系図証註 写本 3冊 27.0 × 19.4 cm <830-150>

書名は書題簽による. 印記「大沢書櫃」. 大正7年5月16日購求

古事記 3 卷 太安万侶 刊本 (洛陽 前川茂右衛門 寛永 21) 3 冊

26.4 × 18.6 cm

印記「大沢源氏図籍」. 大正 7 年 5 月 16 日購求

<830-151>

上巻扉裏に

「校目

戸田通元所蔵古写本 卷尾有大常卿下部朝臣兼永九字 (茶)

曼殊院宮御本 无奥書 (緑)

中臣朝臣連胤大夫蔵本 有享保十一年奥書 无頭書
件本有朱句説及指声等少々移了 (藍。「件本」以降は朱)

尾張国大須真福寺宝生院所蔵応安五年僧賢瑜手写本 摸本 中下巻有奥書 (朱)

就元々集所引古事記文加批校 (黄)

醍醐殿本 標以西字
無首書奥書 (茶)

小槻家蔵古写本 卷首捺小槻宿禰季連印
卷尾有大常卿下部朝臣兼永九字 (朱)」とあり。

上巻卷頭欄外

「八行五字 (緑)

同 (茶)

同 (青)

八行字无定数 (朱)

醍本九行十八字 (茶)

小槻本八行十五字 (朱)」と注がある。

上巻奥書

「以左京亮中臣連重享保十一年所手写本比校畢 嘉永五十一廿七 種案 (青)

以摸僧賢瑜応安五年手写本比校畢 嘉永五十二四
ミツレフル日 (朱)

拝借醍醐殿所蔵本遂一校畢 安政三年正月二日 (茶)
コノ本ハ誤字モ何モ大ヨソ此印本ト異ナルトコロ見エス

中巻卷頭

「此中巻中ニ御本トアルハ賢瑜本ニモトヨリアル校合ナリ、上下ニハ校合ナシ、サテ此御本トイヘルハ奥書ニ扱テ考ルニ文永十年二月ニ部兼文宿禰前関白兼平公ノ御本ヲ拝借シテ此中巻ノミヲ校合セラレタルモノナリ、上下巻ヲモ校合セラレサリシハ甚クチヲシ (朱)」

中巻奥書

「嘉永五年十一月廿八日以中臣朝臣連胤大夫所蔵本批校畢 平種案

(青)

同年十二月五日以賢瑜本摸本批校了 (朱)

下卷奥書

「 古写本奥書臨模 (茶) 小本モ此奥書アリ (朱)

大常卿卜部朝臣兼永 (黒)

偶見得一古写本於友人^{戸田通元}之許請借遂校合畢、件本下卷奥書云大常卿卜部朝臣兼永者今按誤字及旁訓等全同于寛永之印本則知原是同本矣 嘉永三年八月廿一日夜校畢 頭書等同^{頭書等同}寫取了 谷森種案 (茶)

拝借曼殊院宮御本批校畢 嘉永五年十一月五日 種案

頭書等同校了 (緑)

嘉永五年十一月卅日以神祇權少副中臣連胤大夫所藏其祖左京亮連重大夫手寫之本灯下批校畢 朱点少々移了 平種案

件本奥書云

享保十一年四月廿六日書寫畢 左京亮從五位上中臣連重(花押)

(青)

嘉永五年十二月五日夜以真福寺宝生坊所藏賢瑜手寫本之摸本批校及同六日曉更終一部之校合畢于時寒風猛烈朱研易氷 タネマツ
右全部三卷請借董壺種案翁校本移校了

文久元年十月廿八日 大沢清臣

文久二年二年正月六日夜拝借小槻家所藏古写本全部遂一校了

件本卷首捺小槻宿禰季連印今校語標小本是也 源清臣 (朱)

聖武天皇御名考 谷森種案 写本 1冊 27.2 × 19.5 cm <830-147>

書名は巻頭による。印記「大沢書櫃」。大正7年5月16日購求

内容：聖武天皇御名考。達智門院皇后宮考 (嘉永3年12月22日稿)。アシタノ原ノ根サシ。中宮職・皇后宮職 (嘉永3年12月24日稿)。〔皇后という言葉〕

諸司四分配当図 中村静之 写本 1冊 29.9 × 21.1 cm <830-156>

書名は巻頭による。印記「大沢源氏図籍」。大正7年5月29日購求

序末「宝曆八年丙寅之夏秦弘道撰」とあり。

歴代追遠紀年 谷森種案 写本 1冊 26.8 × 19.9 cm <830-153>

印記「大沢書櫃」。大正7年5月29日購求

内表紙表に付箋1枚添付。内表紙裏「コノ書ハ天皇皇后皇太子御母等ノ崩葬ノ年紀ヲメヤスク一日ニ見ワタシテ陵墓ノ広狭制度ヲ当昔ノ時勢ニ合セ考ヘ且ハ諸家ノ日記実録ニ散見シタル事跡ヲ探索セムトスルニ此天皇ノ崩御ハ此年某皇后ノ御葬ハ某日トイチハヤク認得テ千万ノ卷々ヲモタハヤスクカキワケ見得ヘキフミノ林ノ葉ニモセム料ノ安政二年七廿四種案」とあり。延暦元年より明治3年までの年表。天皇の忌日索引を付す。

歴代廟陵考補遺後案弁 3巻 谷森善臣・砂川政教 写本 1冊 26.8 × 19.5 cm <830-148>

書名は巻頭による。印記「大沢書櫃」。大正7年5月16日購求

例言末「安政五年十二月砂川政教謹識」。嵯峨天皇から後龜山天皇までを収録。

その他の大沢本

北蝦夷新誌 岡本文平 刊本（慶応3序刊）1冊 24.1 × 16.6 cm
印記「大沢源氏図籍」。明治35年11月1日購求 <224-110>

職原抄 北畠親房 刊本（慶長元和年間）3冊 29.8 × 21.2 cm <WA7-153>

慶長四年版の覆刻。伏見宮家版。平種松書入本。印記「大沢源氏図籍」。大正7年4月19日購求

上巻末に下記の通り識語あり。

「正平二年十月廿五日書写畢、同廿六日写点訖

権左中弁兼左近衛少将源顕統」(代緒)

「寛正五年甲申五月廿三日以権大納言大外記之本書写畢

慶応二^{丙寅}四月十日就鈴鹿三位連胤卿所藏本一校畢

件本其先連重大夫享保十三年借清原相賢卿秘本

手自所書写也

内舎人大和介平種案」(青)

中巻八十八丁の次丁に補筆あり。その末に下記の通り識語あり。

「正平二年十二月一日書写之并写点畢

* 権左中弁兼左近衛少将源顕統 (代緒)

参議持房卿男 親房准后姪」(朱)

*に「丁亥

距延元庚申七年」と朱註

此文在兩卷中云々奥書之上(青)

北畠大納言入道一品親房卿制作於南朝准后 宣旨云々同号中院云々又代々被号万里小路云々」(代赅)
「慶応二丙寅年三月尽日移校畢件正平本原予所秘藏而係元治甲子兵火
遂為烏有故今請借源清臣往年就予本所对校本移校如此

内舍人大和介平種案(代赅)

右職原鈔一部借得從三位連胤卿秘藏之本再校畢、件本其祖左京亮連
重大夫享保十三年四月就清原相賢卿秘本所手写也云

慶応二年四月十五日 平種松 」（青）

中卷末に下記識語あり。

「此抄者北畠准后大納言源親房所集也
百官之始末諸家之勝劣殆如指掌宜着
眼耳 桃華老人」

下卷末に下記識語あり。

「官位職員科目備令条雖載之上古風
儀輒難量多端也而今此鈔者外顯
除書之体内含令式之義而摸周典之
職配唐官之名又述自中古覃當時諸
家昇進旨趣殆如指掌也是以桃華禪
閣被加格言尤可謂官位職掌之龜鑑
者也爰中原職忠欲鍔樟之余需校讎因
聚考数本從其宜而已并可便覽者七
八科附其後

于時慶長戊申夏四月蚯蚓出日

吏部少卿清原秀賢誌」

(おおぬま よしき 人文課)